

1 溺愛監禁2

2 『溺愛監禁』の続編で、時系列的には一年後。
3 凌辱の日々に耐えかね、どうにか鷹司から逃げ出そうと画策するヒロインだ
4 が、ふとしたきっかけで鷹司の手綱を上手く握る方法を見つけ、心の安寧を取
5 り戻す。

6
7
8 〈登場人物〉

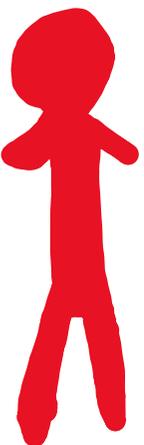
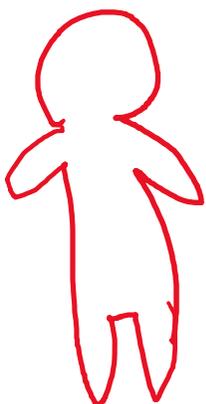
9 ■鷹司 秀

10 三十一歳、大柄。

11 気の狂ったラブラドルレトリバーみたいな性格をしている。

12
13 ■ヒロイン

14 のびのびと一人暮らしをしていたところ、
15 狂人に見初められ拉致監禁をくらい、強姦される毎日を送っている。
16



トラック1 かくれんぼ

鷹司の家から脱出を図るヒロイン。
寝室に隠れて、隙について出て行こうとしたが、捕獲され、お仕置きセックス。

※ヒロインが寝室のクローゼットに隠れている。

鷹司はしばし家の中を探索し、寝室でヒロインの存在に気づく。

SE:ドア一枚向こうからの足音

SE:開錠、ドアガチャ

【15 ドアの外】 ①

鷹司「ただいま、今日は遅くなってごめ……あれ？」

SE:フロリンググウロウロ

【8 ドアの外】 ②

鷹司「おかしいな……どこに行ったんだ？」

SE:ウロウロ

【9 ドアの外】 ③

鷹司「おおい、どこにいるの？」

【16 ドアの外】 ④

鷹司「変だな……逃げられるはずないし……もしかして、

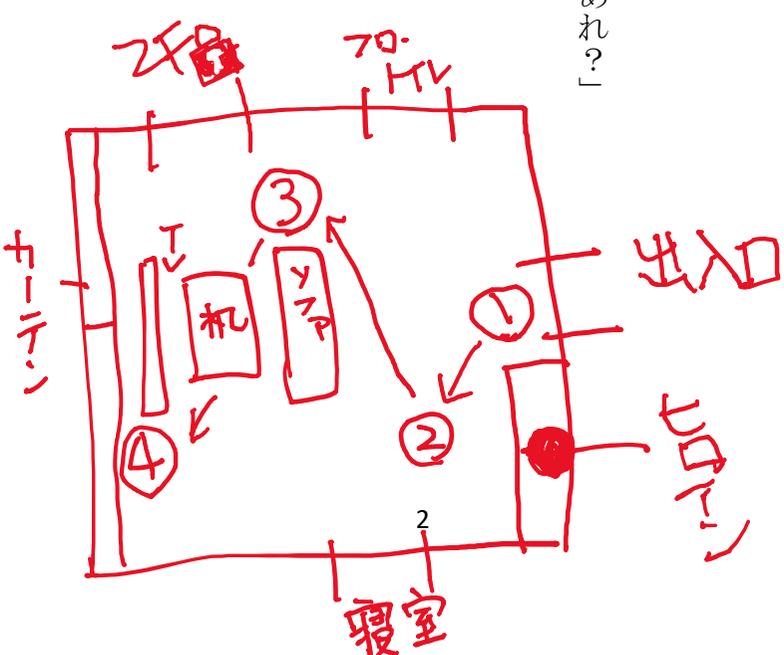
僕が遅くなったから、イラズラしようと思って、隠れてる？

たとえば——「こことか」

SE:カーテンしゃつ

鷹司「……違うか」

SE:近づいてくる足音



1 SE: 寝室の扉を開ける

2
3 【鷹司、寝室の扉近くのクローゼットに、
4 ヒロインが隠れていることに気づく】

5
6 【9 意地悪に笑う感じで】 ①

7 鷹司「……ああ。なるほどね」

8
9 【非常にわざとらしく】

10 鷹司「どこかなあ、全然わかんないや。

11 僕の奥さんは、一体どこにいるんだろう」

12
13 【鷹司、いったん寝室から離れる】

14
15 SE: 離れていく足音

16 SE: トイレのドアガチャ

17
18 【15】 ②

19 鷹司「お手洗いかな？」

20
21 SE: 風呂のドアガチャ

22
23 鷹司「それか…お風呂？ ……はは、流石にいないか」

24
25 鷹司「あとはそうだなあ……玄関のドアはちゃんと鍵かかってたし、

26 窓は開かないようになってるでしょ？

27 だとすると、二階のどこかの部屋かなあ？」

28
29 【低く脅す感じで】

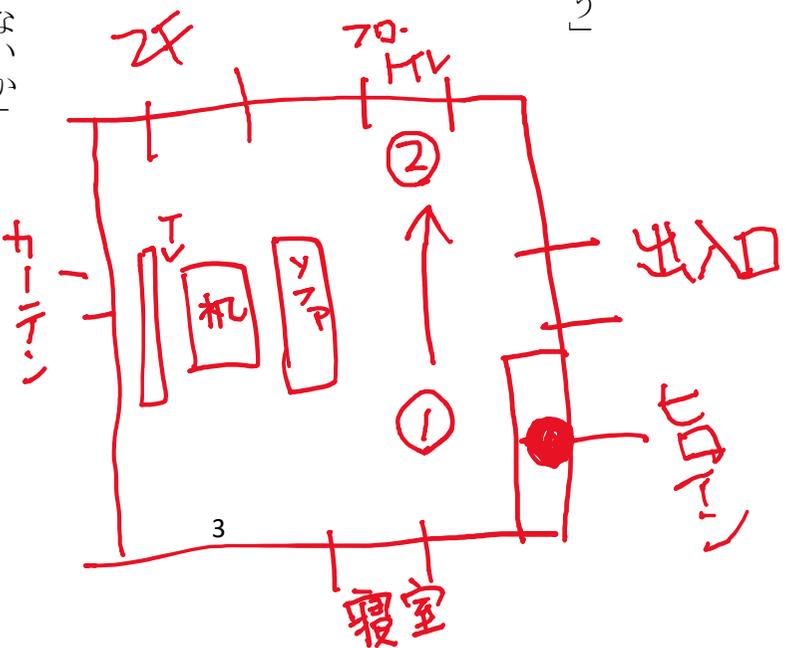
30 鷹司「まさか、僕が二階まで探しに行ったら、

31 こっそり玄関から逃げようなんて、思ってたらしらないよね？」

32
33 SE: ヒロインが動揺で身動きする（ガタツとか、衣擦れの音？）

34 SE: 鷹司が近づいてくる足音

35



【9 静かに言い聞かせる】 ①

鷹司「でも、今更知らないはずないよね？」

玄関はね、内側からも外側からも、

指紋認証でしか開かないようになってる。

僕の奥さんの指紋は登録してないから、

辿り着けても、そこでおしまい」

鷹司「でも、もしそんなイタズラを僕の奥さんが本気でしたら、

残念だけど……

僕も真面目にお仕置きしなくちゃいけないなあ」

【冷たい声で命令】

鷹司「今ならまだ、許してあげる。

自分で出ておいで」

SE:クローゼットのドアが開く

※くぐもった音終了

SE:ヒロイン駆け出す

【飛び出し、体当たりを食らわせてくるヒロイン 鷹司軽くよろける】

【1】

鷹司「……つとと?!

びっくりした……急に飛び出すなんて、危ないなあ。

僕が避けたら、転んで怪我したかもしれないんだよ？

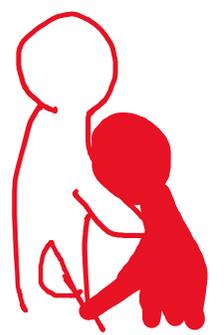
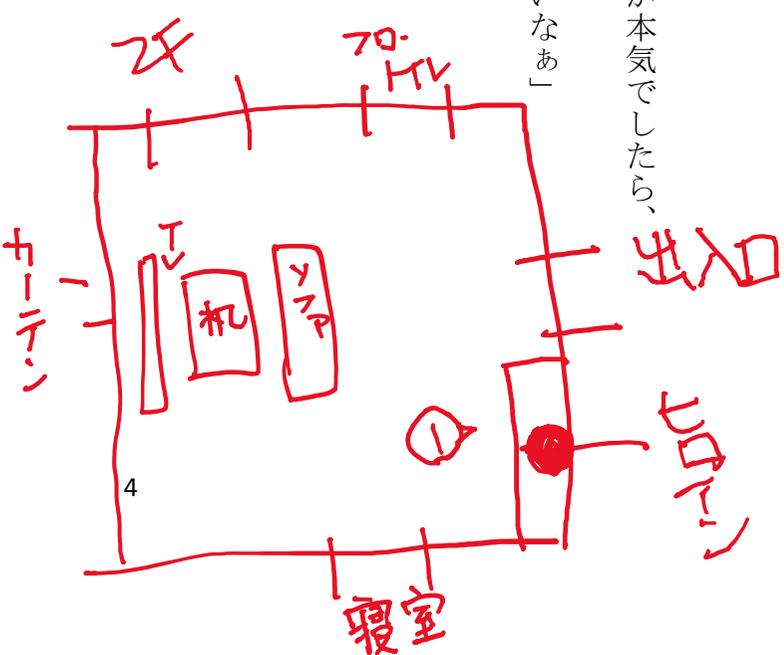
ん……?」

【ヒロインの手元に、包丁があることに気づく】

鷹司「それ……包丁？

そんな危ないもの、どうやって……（ハッと思い出し）！

ああ……この間一緒に料理したあと、数えるのを忘れてたな」



1 鷹司「最近はいい子にしたのに……
2 僕の愛が通じたと思っただのに、
3 逃げるために、いい子のふりをしてただけなんだね。
4 ……残念だよ【ここだけリアルに落ち込んで】」

6 【気を取り直して】

7 鷹司「それで——その包丁をどうするつもり？
8 僕を刺して、人殺しになる？
9 そうしたら、君は僕の死体を夢に見るかな？
10 僕を刺した時の感触を、何度も何度も思い出す？
11 僕が痛みで苦しむ声をいつまでも覚えてくれる？
12 ねえ……君はまだ、人を殺したことはないよね。
13 じゃあ、僕が君の初めての男だ」

15 【3】

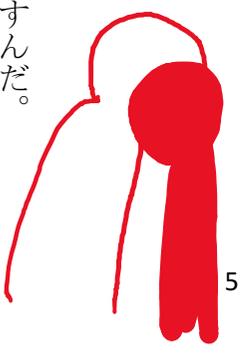
16 鷹司「知ってる？ 人間の筋肉って、結構硬くて刺しにくいんだ。
17 僕は鍛えてる方だから、君の力じゃ内臓に届かないかも。
18 だから、そうだな……血管を狙うのが一番いい。
19 どこかわかるよね？」

21 【3 舐めるように近く】

22 鷹司「首だよ。ほら、ここが頸動脈だ。
23 ここを切ったら、僕の血が吹き出して、君の全身を濡らすんだ。
24 想像してごらん。錆び臭いぼくの血の臭いと、
25 あたたかさ、ぬめぬめとした感触。
26 僕の体は段々冷たくなって、硬くなって、また柔らかくなる」

27
28 鷹司「君は、僕の手首を切り落として、玄関まで持っていくかな？
29 そして期待に胸を膨らませて、指紋認証キーを開けようとする。
30 でも、開かないよ。
31 死体の指じゃ反応しないんだ。
32 だから僕を殺した君は、結局この部屋から一步も出られない。
33 死んだ僕と、ズーっとズーっと二人きり……。
34 もう、だれも料理をしてくれない。食料も運び込まれない」

36



1 【3】
2 鷹司「そのうちお腹が空いたら、僕のことを食べちゃうかな？」
3 飼い主が死んだ。ペットにみたいに」
4

5 鷹司「うっとり】僕の血肉が君に取り込まれて、混ざり合って、
6 君が命を繋げるために燃やされるなんて……」

7 ああ……夢みたいだ。
8 でも、それも一時しのぎ。
9 君はどうせ飢えて死ぬ。」
10

11 【ヒロイン、ドン引きで動けない】
12

13 【1 覗き込むように】

14 鷹司「【残念そう】どうしたの？」

15 刺す気、なくなっちゃった？

16 一緒に死んでくれないの？

17 まあ、人を殺すのは大変だもんね。ちよっと難しいか」
18

19 【1 少し離れて 朗らか↓不穏】

20 鷹司「もう悪戯はおしまいかな？」

21 じゃあ、そろそろお仕置きにしようか——あ、こら！
22 暴れないの、危ないから……！」
23

24 【鷹司が包丁に手を伸ばし、ヒロイン抵抗する】
25

26 SE:どつたんばつたん

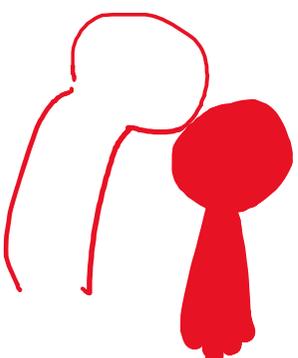
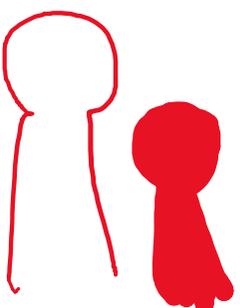
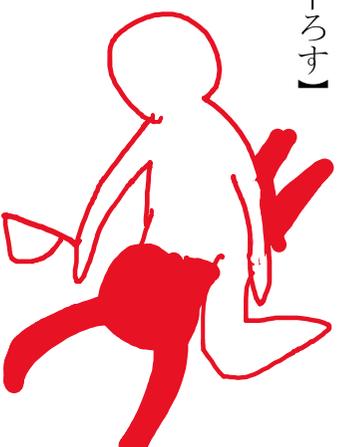
27 SE:二人して床に倒れこむ

28 SE:包丁取り落とす
29

30 【13 うつぶせに倒れたヒロインに馬乗りになって見下ろす】

31 鷹司「あっははは！ ほーら、つかまえた！」
32

33 【ヒロインが包丁を拾おうとするが、先に拾う鷹司】
34
35
36



1 【4】
2 鷹司「おっと……！ だめだめ。
3 僕を刺す気がないなら、包丁なんて持っても危ないだけだからね。
4 これは没収。いい？」
5

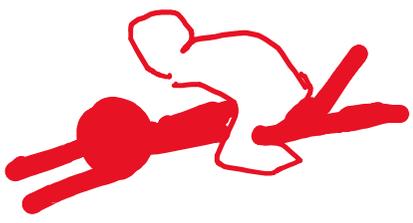
6 【3 耳にキスしながら】
7 鷹司「刃物で切られたら痛いって、知らないわけじゃないだろ？
8 それとも……知らなかった？
9 小さな子供みたいに？
10 だから僕を刺そうとしたの？ ちょっと気を引きたくて？
11 そうだよね！
12 君のことをこんなに愛してるのに、僕を殺そうとするなんて、
13 するはずないよね」
14

15 鷹司「でも、そうか。
16 じゃあ、君に教えてあげなくちゃね。
17 刃物で切られるとどうなるか。
18 刺されるとどうなるか。
19 どれだけ痛くて、つらくて、苦しいか。
20 君が僕に与えようとした痛みを感じて、
21 君がどう思うのか……知りたいな」
22

23 SE：ヒロインの体を仰向けにひっくり返す

24 【ヒロインの身体の上を包丁フラフラさせる鷹司】
25
26

27 【9 見下ろす距離】
28 鷹司「どこがいいかな……痛みは感じるけど、
29 割とすぐ治るとこ……
30 君はどこがいい？ リクエストがあったら聞くよ？
31 もう危ないことができないように、
32 ちゃあんと、僕が教えてあげる。
33 手のひらは？ 神経が集中してるから痛いんだ。
34 肩なら結構深く刺せるよね。
35 ——いや？ そう。それじゃあ……」



1
2 【ヒロインのシャツを襟からお腹の方へ切っていく】

3
4 SE:刃物でシャツをジューっとキル

5
6 【鷹司、心臓の斜上に切っ先つける】

7
8 【9 見下ろす距離】

9 鷹司「ここ。鎖骨の下。

10 ……ここなら、ぎりぎり心臓に当たらないけど――。

11 ひやっとするだろ？

12 少しずれたら致命傷だ。

13 震えてる…怖い？

14 大丈夫、僕を信じて。

15 僕が君を死なせるわけないだろ？

16 君を失うなんて、想像するだけで耐えられない。

17 本当は、こんなことだってしたくないんだ、

18 でも、罰はちゃんと受けないと。

19 これだけ怖くて、痛い思いをすれば、

20 君は二度と刃物なんて持ちたくなくなるはずだから」

21
22 【テンション上がってくる】

23 鷹司「ああ…そんなに可愛い顔しないで。

24 酷くしたくなっちゃう。

25 さあ、いくよ……」

26
27 【ヒロイン「ごめんなさい！ごめんなさい！」】

28
29 【9】

30 鷹司「ああ……」

31
32 【1 ぐっと近づいて】

33 鷹司「やっどごめんなさいが聞けたね。

34 本当に反省してるの？

35 もう二度と、包丁を持ったりしない？」

36

1 【ヒロイン泣きつつ肯定】

2
3 鷹司「……わかった、ちゃんと謝れたから、許してあげる。

4 ほら、口を開けて。

5 仲直りのちゅーしよう」

6
7 【1 デイープキスしながらよしよしちゅっちゅ

8 鷹司「よしよし、怖かったね。大丈夫。

9 ほら、落ち着いて。

10 ちゃんと反省できるいい子には、

11 痛いことなんかしないさ……

12 君は僕の大事な奥さんだから——ね？」



トラック2 お仕置き

めめめするヒロインをベッドに連れて行き、セックスになだれ込む鷹司
基本的にヤってるだけのトラックです

【開幕ディープキスー〇秒くらい】

【1】

鷹司「ん……ちゅ……じゅる……はぁ……ん……」

【だんだん欲情してくるヒロイン】

【あざける感じで】

【1 少し離れて】

鷹司「はは、すぐメスの顔になる。

泣き顔もいいけど、やっぱりこっちの方が好きだな」

【下着越しに秘所に触れる】

【7 耳元で囁くように】

鷹司「ここも、すっかりドロドロだ。

もうパンツなんて意味ないね、脱いじゃおうか。

腰あげて……そう、良い子。

君の大好きなとこ、触ってあげる」

SE:パンツ脱がし後、手マン開始

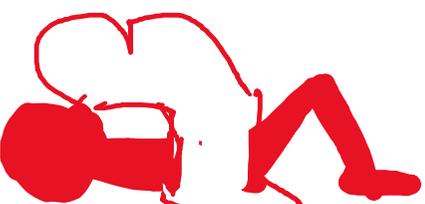
鷹司「気持ちいい？ 声、我慢しないでいいよ。

ごめんね、僕が帰ってくるまで、寂しかったでしょ？

何日かしたら休みになるから、その時に埋め合わせするよ」

【1 少し離れて】

鷹司「そうだなあ……」



1 【3 耳元で囁くように】
2 鷹司「この間買ってきたおもちゃ使おうか？」
3 君、あれのことすつごく気に入ってたもんね」
4

5 鷹司「よだれ垂らして、顔ぐちゃぐちゃにして、
6 だらしのない声ずーっとあげて、
7 何回イツたか、わかんないくらいだったな。
8 今度は気絶するまで、あれで遊んでみようか」
9

10 【軽く興奮して】

11 鷹司「ははっ……どうしたの、中がきゅーって締まってる。
12 ひどいことされるの想像して、
13 それだけで気持ちよくなっちゃった？」
14

15 【ヒロイン否定】

16
17 【2 少し離れて】

18 鷹司「面白がるように」また否定するんだ？
19 さっきまで怖くて泣いてたのに、
20 キスですぐに濡れちゃうような、淫乱のくせに、
21 まだ認める気にならないの？」
22

23 【3 低く囁く】

24 鷹司「君みたいな子、なんていうか知ってる？
25 ——ドMの変態だよ」
26

27 【ヒロインが軽くイく様子に、さらに興奮する鷹司】
28

29 鷹司「【嘲りの失笑】

30 あーあ、変態って言われてイっちゃった。
31 否定してもダメだよ。ほら、奥の方——」
32

33 鷹司「ビクビクってなってる。

34 僕が指をちよっと動かすたびに、何度も、何度も。
35 ほら、ほら……！」
36

1 【2】
2 鷹司「あっははは！」

3 こうやって虐められるたびに可愛い声出して、
4 まんこ濡らして、イキまくってるクセに、
5 一体誰が信じてくれる？
6 君は被虐趣味の淫乱なんかじゃないって」

7
8 【1 覗き込むように】

9 鷹司「君がこんなに変態だから、僕は君を外に出してあげられないんだ。
10 だって君がこんなどうしようもない淫乱だって気づかれたら、
11 どこかのバカなやつに乱暴されちゃうかも。
12 好きものなんだから良いだろう、ってさ」

13
14 【自分で自分の言葉に不機嫌になる鷹司】

15
16 【1】

17 鷹司「僕以外のこと、君が受け入れるわけがないのにね。
18 そうでしょう？ ねえ、ほら、返事は？」

19 【言い含めるように】君は、僕以外とえっちして、
20 喜んだりしないよね？」

21
22 【ヒロインスルー】

23
24 SE:手マン終了

25
26 【イライラ】

27 鷹司「ねえ、どうしてちゃんと喋ってくれないの？
28 僕が不安になってるの見て、楽しんでる？
29 それがどんなにひどい意地悪だか、わかってる？」

30
31 【1】

32 鷹司「……脚を開くんだ。
33 もっと大きく。ほら、僕の腰に足絡めて」

34
35 SE:ゆっくり挿入

36



1 【1】

2 鷹司「あ、ああ……！」

3 ほら、奥に届いた。

4 ははっ、もうイっちゃった？

5 手マンされながら、ずっと期待してたんだ？

6 かわいい〜（笑）」

7

8 SE:ゆっくりピストン↓徐々に早く

9

10 【7 耳元で】

11 鷹司「ほら、わかる？

12 今、君の体が、僕のちんぽを、すっ……ごく締め付けてる。

13 どうしてだと思う？

14 君は僕のが大好きで、大好きで、ずっと一緒にいたいからだよ」

15

16 鷹司「君はどうしようもない淫乱だから、

17 セックスでしか、本当の気持ちを表現できないんだ。

18 僕のことを愛してるって、ちゃんとお口で言えるようになるまでは、

19 こうやって、体に聞くしかないなあ」

20

21 鷹司「はあ、はあ……ああ……奥……一番奥、ゴツゴツ突くと、

22 気持ちいんだよね？

23 こうやって……！ ほら！ 何度で突いてあげる……！」

24

25 【吐息のみしばし 秒数お任せしますので、良きタイミングで次のセリフへ】

26

27 鷹司「いきそう？ いいよ、一緒にいこう。

28 僕に虐められてびちゃびちゃになっちゃう、

29 素直で淫乱なまんこ、満足するまで突いてあげる……っ

30 出すからね……！」

31 このまま、君の一番奥に……！」

32 ごぼしちゃだめだよ？ ほら、出すから、ぎゅってしめて……！」

33 あ、そう……気持ちい……あ、ああ……！」【射精】」

34

35 【抜いてからピロートークへ】

36

1 【1 息整えつつ得意げに】

2 鷹司「気持ちよかったね、よしよし。

3 いっぱいいってるの、可愛かったよ。

4 僕のが大好きって、すっごく伝わってきた」

5
6 【顔面に軽いキスの雨をふらせつつ、ヒロインを甘やかす鷹司】

7

8 鷹司「よしよし、大丈夫だよ。

9 君がどれだけ恥ずかしがり屋さんでも、

10 ちゃんと気持ちはわかってるから。

11 口で言えなくても、こうすればわかるもんね

12 意地悪されるのは、少し悲しいけど……」

13

14 【抜いてベッドから立ち上がる】

15

16 【1↓11 ベッドからおりてベッドサイドへ】

17 鷹司「そろそろ、ご飯にしようか。

18 今日は新しい料理に挑戦してみたんだ、

19 楽しみにしてて。それじゃあ、あとでね」

20

21 SE：遠くかっついていく足音

22 SE：ドアバターン

23

24

25

26

27

28

29

30

31

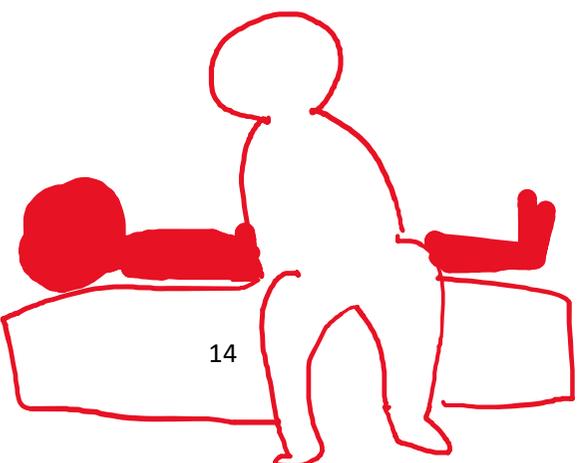
32

33

34

35

36



1 トラック3 ピクニック

2 ヒロインの気持ち少し鷹司に傾くための穏やかシーン。
3 溺愛でろあま成分五割り増しでヒロインの脳を溶かしたい

6 SE:車の走行音からの停車

7 SE:ドア開け

【7】

10 鷹司「……ついたよ、ずっと座ってて疲れたでしょ。
11 こっちむいて。鎖はずしてあげるから」

13 SE:手足の鎖をはずす

15 【ヒロインをお姫様抱っこで車から取り出す】

【8】

18 鷹司「ほら、おいで……よいしょと……!」

20 SE:鳥の声と川のせせらぎ (自然っぽさ) (森の中の川原)

21 SE:足音続ける (やや湿った土)

23 【ヒロインをお姫様抱っこしたまま移動する鷹司】

25 鷹司「きれいな場所ですよ。

26 弟の持つてる土地なんだけど、

27 ピクニックに行くからって、貸してもらったんだ。

28 木陰が多くて、気持ちいいでしょ?

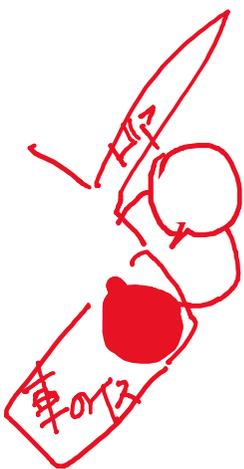
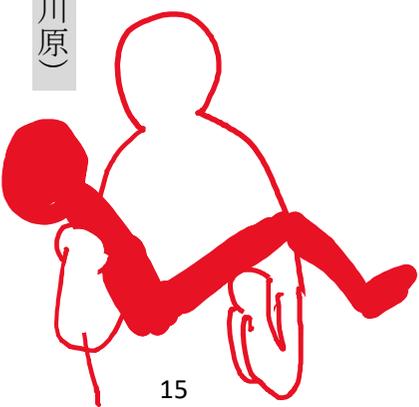
29 お弁当持ってきたし、あとでゆっくり食べよう」

31 鷹司「あ、川には入っちゃダメだよ。

32 まだ冷たいし、危ないからね。

33 ライフジャケットだって用意してないし……」

34
35



1 鷹司「大げさなんかじゃない。
2 ライフジャケットは、川遊びの基本装備だよ。
3 それに……」

4
5 【7 耳元でこそこそ話】

6 鷹司「……実はね、僕はちよつと水が苦手なんだ。
7 練習したから、溺れたりはしないんだけど、
8 溺れてる君を助けようとしたら、二人で一緒に溺れちゃうかも。
9 子供の頃はプールの授業が嫌で、
10 熱が出たつてお手伝いさんに嘘ついたりしたなあ……
11 まあ、普通にバレちゃったけど」

12
13 【8 悪戯っぽく】

14 鷹司「これ、誰にも言わないでね。内緒だよ？」

15
16 【ヒロイン「誰にも会わないから言えない」】

17
18 鷹司「【無邪気に】あつはは！ それもそうか。
19 話し相手は僕だけでもんね。
20 でも、そうだな……
21 うん。
22 そのうち、僕の家族を紹介するよ」

23
24 鷹司「血筋のかな…一途な人ばかりだから、
25 安心して君を会わせられる。
26 一途すぎて、ちよつと危なっかしい時もあるけどね。
27 でも優しい人たちだよ、安心して」

28
29 SE：足音ストップ

30
31 鷹司「あ、ついたよ。
32 ほら、レジャーシートとクッション。
33 一度下見に来て、眺めのいい場所に用意しておいたんだ。
34 そ、グランピングってやつ。
35 さあ、どうぞお姫様」

36

1 【鷹司、ヒロインをレジヤシート上のふかふかクッションに下ろす】

2
3 SE:ふかっとした音

4 SE:そよ風

5
6
7 【7 一緒に座って、川を眺める】

8 鷹司「ねえ、喉かわかない？」

9
10 SE:魔法瓶開ける

11
12 鷹司「カフェオレ、作ってきたんだ。

13 はい、どうぞ」

14
15 【1 隣り合って見つめ合う】

16 鷹司「どうしたの？ ビックリした顔。

17 いつもみたいなのに、口移しで飲ませてほしい？」

18
19 SE:否定の衣擦れ

20
21 鷹司「じゃあ、ほら。

22 自分で持って。——美味しい？」

23
24 SE:肯定の衣擦れ

25
26 【7 うっとり】

27 鷹司「ふふ……可愛い。

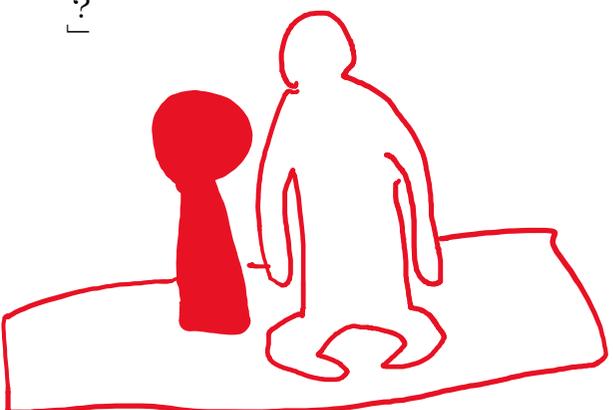
28 君があんまり可愛すぎるから、

29 閉じ込めときたくなる」

30
31 【少しうつむいて、独り言をつぶやく鷹司 母親を監禁し、衰弱死させた父の
32 ことを思い出す】

33
34 鷹司「……ああ、きつと父さんも、こんな気持ちだったんだ」

35
36



1 【7 ヒロインの方に静かに話しかける】
2 鷹司「僕はね、母さんとはほとんど会ったことがないんだ。
3 父さんの部屋の、さらに奥の部屋で暮らしてね。
4 窓についてた鉄格子の隙間から、ずっと小鳥を見てた」

5
6 鷹司「声もほとんど聞いた事ない。
7 折れそうなくらい細くて、白くて、弱々しくて……」
8

9 【不安そうに】
10 鷹司「あの人が死んだ時、父さんはどう思ったんだろう。
11 僕だったら、とても耐えられない。
12 君のいない世界に残るなんて、
13 考えるだけでおかしくなりそうだ……！」
14

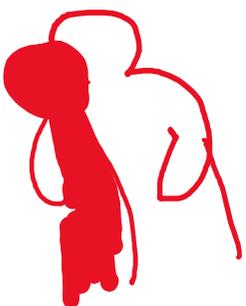
15 SE：ヒロインを抱き寄せる
16

17 【3 ヒロインを抱きしめて耳元で】
18 鷹司「もし君に何かあったら、すぐに僕も後を追うから。
19 天国でも地獄でも、絶対に一人にしない……！」
20

21 【1 ちょっと離れ、冗談めかした感じで】
22 鷹司「…なりんで、起こつてもないことで、
23 ちょっと大げさすぎるよね。
24 君は母さんと違って全然元気だし、
25 僕だって父さんとは違う」
26

27 【1 うつむいて ぼそぼそと自分に言い聞かせる】
28 鷹司「そうだ、僕はあの人とは違う。
29 あの人と同じ間違いなんかしない。
30 ちゃんと外にだって出してあげるし、
31 本もテレビも禁止なんかしない。
32 だから君はこんなに元気だし、早死になんかしない」
33

34 【1 再び一転して、明るく】
35 鷹司「ごめん、そろそろお腹空いたかな？ お弁当にしようか」
36



1 SE:地面に置いてた弁当箱ゴソゴソ

2 【1 弁当の方を見ながら(どこでも可)】

3 鷹司「今回はね、サンドイッチにしてみたよ。

4 普段わざわざ作らないけど、たまには新鮮でいいよね」

5 【1 ヒロインを見ながら】

6 鷹司「具は、君の好きなやつ。

7 【近づいて】はい、あーん」

8 【ヒロイン、素直に食べる】

9 鷹司「少し驚いて」え……？

10 あ、いや……いつもみたいに嫌がらないから、

11 ちょっとビックリして。 どうしたの？ そんなに大好物だった？」

12 【ヒロイン「手錠がないから」】

13 鷹司「手錠……？」

14 【ものすごく意外そうに】手錠されるの、そんなに嫌だったの？」

15 【ヒロイン「あたりまえだと思う」】

16 鷹司「ああ……そうか。

17 【照れ笑い】そうだね……当たり前だ。

18 でも、僕は……どうしてかな。

19 そうしないといられなくて……

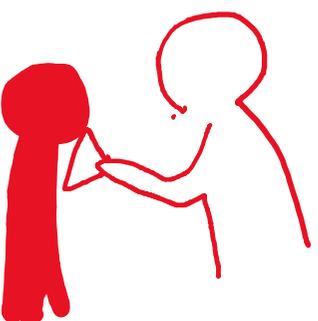
20 だって……君に逃げられたら、僕は……」

21 鷹司「【混乱】でも、僕たちは愛し合ってるんだから、

22 君が逃げるはずなんてないのに……」

23 鷹司「【ごまかし笑い】あはは……ッ！

24 なんか、急に……わかんなくなってきた」



1 鷹司「でも……そうだね。
2 じゃあ、手錠はこれからなしにしようか。
3 これからも何か嫌なことがあったら、
4 ちゃんと僕に教えて？
5 改善できるように努力するから。
6 だって、僕たちはもう夫婦なんだから」
7

8 【ヒロイン、ここで同調しておけば鎖ナシになるなと思ひ頷く】
9

10 鷹司「ああ……嬉しいなあ。

11 君とこんな風におしゃべりするのって、なんだか初めてな気がする。
12 君はいつも恥ずかしがって、
13 えっちしてる時しか素直な気持ちを話してくれないから」
14

15 鷹司「幸せだな。

16 君の笑顔を見てると、夢みたいにふわふわする。
17 家庭をもつて、こんな感じなんだね」
18

19 鷹司「ああ、ごめん。

20 お弁当の途中だったね。
21 ——ねえ、一つ、お願いしてもいいかな？」
22

23 鷹司「僕に食べさせてくれる？ いつも僕が、君にやってるみたいに。
24 あーんって」
25

26 【ヒロイン、サンドイッチを手に取り、差し出す】
27

28 鷹司「……ッ！ や……やってくれるの？

29 どうしよう。こんなに幸せでいいのかな？

30 じゃあ……あーん。

31 ん……もぐもぐ……ごくん。

32 はは、美味しい。

33 今まで食べたどんなものより、最高に美味しい」
34

35 鷹司「僕と出会ってくれてありがとう。

36 愛してるよ。僕の大事な奥さん【頬に軽くキス】」

トラック4 思い出

トラック3から数ヶ月。
監禁生活で脱出を諦めてしまったヒロイン。
しばらく従順に暮らしていたが、ある日掃除中に手錠が見つかる。
鷹司が冗談で付けてみるところから、女性上位プレイ。

SE:部屋の引き出しがざわぞ

【14 やや遠くで独り言】

鷹司「【懐かし嬉しい】……ああ、これ、こんな所にしまってたっけ」

【ソファにいるヒロインの方に近寄ってくる】

SE:近づいてくる足音

SE:ヒロインの隣に座る

【8 隣に座り、ヒロインを見ながら】

鷹司「ねえ…これ、覚えてる？」

SE:手錠の揺れる金属音

鷹司「ただの手錠じゃないよ？」

僕が君にプロポーズしに行った時に、使ったやつ。
懐かしいなあ。すっかり存在を忘れてた」

【ヒロインのデコに軽くキス】

【1 至近距離で、悪戯っぽく】

鷹司「そうだ、久々にこれ、使ってみる？
興奮するでしょ？ 縛られて犯されるの」

【ヒロイン「鷹司が付けてみては」】



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35

1
2 【1 少し離れて】
3 鷹司「え……？ 僕が？」

4 うーん、君がそう言うなら、つけてもいいけど……
5 サイズ合うかなあ。
6 ん？ 君が付けてくれるの？
7 ふふ……また、悪いイタズラ考えてる？」

8
9 【5 後ろを向きながら】
10 鷹司「いいよ。じゃあ、ほら。後ろ手にガチャンって」

11
12 SE:手錠ガチャン

13
14 鷹司「【軽く痛い】い……ッ
15 ああ……君に合わせた特注品だったから、
16 やっぱりちよっとキツいな。全然ゆとりがないや」

17
18 【1 ヒロインに向き直りながら】
19 鷹司「鍵は金庫の中だから、僕が自力でこれを外すのは大変そうだね。
20 【ちよっと期待して】——ねえ、これからどうする？
21 今度こそ僕のこと、殺しちゃう？」

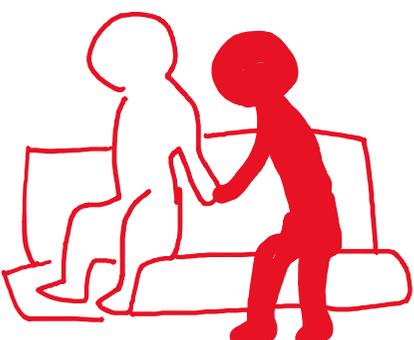
22
23 【ヒロインが膝に乗る】

24
25 SE:ソファが軋む

26
27 鷹司「おっと……！
28 どうしたの？ 君から膝にのってくるなんて、珍しいね。
29 急に甘えたくなっちゃった？
30 じゃあ、手錠遊びは終わりにしよう。
31 手錠したままじゃ君を上手に
32 可愛がってあげられな——ん！？ 【ヒロインからデープキス
33 (自分が攻められるのを避けたい)】」

34
35 SE:ソファ変形させてベッドに

36



1 【1】
2 鷹司「【十秒ほどディープキス】ん……ちゅ……
3 はぁ……。」

4 【嬉しいけど信じられない感じで】びっくりした。
5 君の方からキスしてくれるなんて……
6 お願い、もう一回して……」

7
8 【ディープキスしつつ、合間にうっとり】

9 鷹司「あぁ、夢みたい……嬉しい……」

10 どうして急に、積極的になったのかな。

11 もしかして、手錠をしてるから？

12 僕が拘束されると、君からちゅーしてくれるの？

13 だったら僕、もうずーっと、

14 手錠して過ごそうかな【キスここまで】」

15

16 鷹司「君が急にかわいいことするから、

17 もうガチガチになっちゃった」

18

19 【3 耳元で、興奮したように】

20 鷹司「ねえ、触って……君から。」

21

22 【ヒロイン、鷹司のズボンのファスナーを下ろす】

23

24 SE:ズボンのチャックおろす

25

26 【ヒロイン、ズボンに手を突っ込んで下着越しに陰茎を掴む】

27

28 【3→1 驚いて体を引く感じ】

29 鷹司「わぁっ、そんな…、急に握られたら…！」

30 あ、待つて……そ、んな……いきなり強くしないで…

31 あ、うぁ……おねがい、もっと優しく……！」

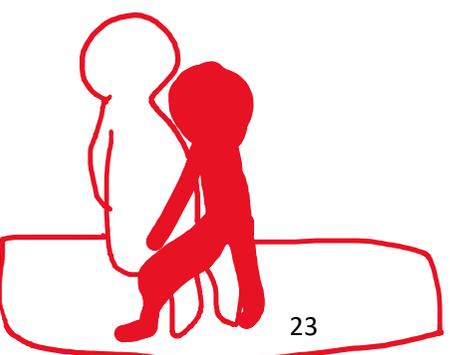
32 パンツの中で、出ちゃうから……っ」

33

34 SE:先走りでにちゃにちゃ

35

36



1 【1】

2 鷹司「あ、ああ……！」

3 お願いだから、少しだけ待って……！

4 あ、ダメ……！ 先っぽぐりぐりしたら……すぐ……！

5 だめ、だめ……！

6 ほんとに出ちやうから……！

7 もう……あ、ああ……あ……！ 【射精】

8

9 鷹司「【呼吸を整える】はあ……はあ……

10

10 【拗ね】……ひどい、どうして止めてくれなかったの？

11

11 ちゃんと二人で気持ちよくなって、君の中に出したかったのに、

12

12 僕だけ一人でいっちゃうなんて……

13

13 服、汚れちゃったな。

14

14 ねえ、着替えてちゃんと続きしよ。

15

15 ほら、膝から降りて」

16

17 【ヒロイン、鷹司のシャツ（前開きボタン）を脱がしていく】

18

19 SE:布「コンコン

20

21 鷹司「【不思議そうに】どうしたの……？

22

22 君が脱がせてくれるの？

23

23 嬉しいけど、まずは手錠を外さないで。

24

24 ねえ、カギを取ってきてくれる？

25

25 その金庫の中に……

26

26 ——うわ！？ 【快樂というより、純粹にビククリした感じで】

27

28 【ヒロイン、鷹司の胸をいじり始める】

29

30 鷹司「【困惑して】ど、どうして胸を触るのかな。

31

31 男の乳首なんていじっても、面白くないでしょ？」

32

33 【ヒロイン「（自分がいじられるよりは）楽しい」】

34

35 鷹司「た……楽しいの？

36

36 それなら、まあ、いいけど……」

1
2
3 【だんだん気持ち良くなってくる】
4 鷹司「ん……あ……」

5 ああ、どうしよう……出したばかりなのに、
6 だんだん、変な気分になってきちゃった。
7 おかしいな、自分の乳首なんて、開発したことないのに。
8 触ってるのが君だと思うと、なんか……」

9 SE:乳首を吸う

10
11 【1 やや上から】

12 鷹司「【快樂強め】ひゃう……!!？」

13 あっはは……くすぐった……ッ
14 赤ちゃんみたいにおっぱい吸って、美味しいの？」
15

16 【ヒロイン、軽く噛む】

17
18 鷹司「痛っ……ごめんごめん、噛まないで。
19 赤ちゃん相手に、こんな風になったりしないよ。
20 ああ……君の口の中、あつくて……
21 舌、ぬるぬるで……
22 どうしよう、気持ちいい……気持ちいい……」
23

24 SE:手錠がちやがちや

25
26 鷹司「ねえ、これ……はずしてくれない？
27 君があんまりいやらしいから、ほら、また勃起してきちゃった。
28 もどかしくて、苦しいんだ。
29 お遊びは十分だろ？
30 もう、君の中に入れて。お願いだ」
31

32 SE:ヒロインの手コキ

33
34
35
36

1 【7 ヒロインが近づいてきたので必然的に耳が寄る程度】
2 鷹司「あ、ちが……違うよ、君の手でしてほしいんじゃない……
3 今度は、君の中でいきたい。
4 いい子だから、ちよっと待って……！
5 今、いったばっかりで、敏感だから……またすぐに……！」

6 SE:手コキ停止

7
8
9 【行く直前で寸止めされて、苦しむ鷹司】
10
11

12 【1】

13 鷹司「【苦しげに】うっ……あ……！！
14 そんな、今やめるなんて、ひどい……！
15 ねえ、苦しいよ、これ……苦しいんだ、本当に……！
16 どうして、こんな意地悪するの？」
17

18 【ヒロイン「お仕置き？」】
19

20 【びっくり】

21 鷹司「お……お仕置き？
22 君が……僕をしつけてくれるって……？
23 それって……
24 僕がいい子にしてたら、
25 ちゃんと我慢できたら、ご褒美をくれるって……？」
26

27 【攻められるよりマシかと、渋々了承するヒロイン】
28

29 【喜び】

30 鷹司「……やっぱりこれ、夢なのかな。
31 こんな積極的になってくれるなんて」
32
33
34
35
36

1 鷹司「ねえ、どんなご褒美くれるの？」
2 僕のちんぽが大好物の、可愛いお口でしゃぶってくれる？
3 それとも、いっつもぬるぬるで準備万端な、
4 淫乱まんこで奥までくわえこんでくれるの？
5 どっちでもいいよ。
6 君の体内に僕が残るなら、どこでも」

SE 軽く叩く

9
10 鷹司「【驚いて】ど、どうして叩くの……？
11 僕、何か悪いことした？」

12
13 鷹司「ご、ごめん……！ もう言わない！
14 君のこと、淫乱なんてもう言わないから！
15 お願い、このまま続けて。
16 ちゃんといい子にする。言うとおりにするから」

17
18 【ソファに寝転ぶようヒロインが指示】

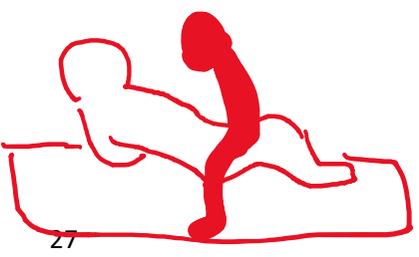
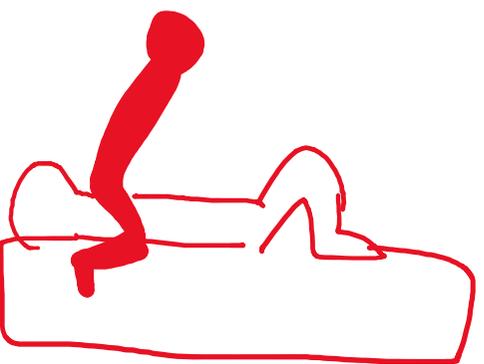
19
20 鷹司「このまま、ソファに寝ころべばいいの……？
21 でも、手錠が……
22 【慌てて】ううん、嫌じゃない！ 言うとおりにするよ！」
23

24 【仰向けになった鷹司の、足の方を向きつつ顔面騎乗するヒロイン】

SE ソファの軋み

25
26
27 【5 シャガんでください】
28 鷹司「これ……もしかして、顔面騎乗ってやつ？
29 あっはは。すごい眺め。
30 君の奥の奥まで見えちゃうよ。
31 ああ……もう、ちよっと濡れてる。
32 僕のおちんちん触って、興奮してたの？
33 それとも、可愛くおっぱい吸ってた時？
34 可愛い……君はやっぱり、どうしようもない淫乱だ」
35

SE 強めに叩く



1 鷹司「いった……！」
2
3 鷹司「ごめん、また汚い言葉使っちゃったね。
4 ねえ、はやく僕の悪い口をふさいで。
5 君のかわいいおまんこで」
6
7

8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【クンニ開始】

【5 下から 息苦しそうに舐めつつ】
鷹司「自分から……僕の口にまんこ押し付けて、
舐められるの……気持ちいい？
気持ちいいよね、もうあふれてきたもん。
腰だって、我慢できずに揺れてるし」

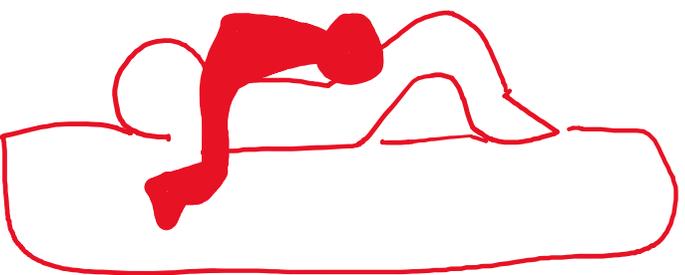
鷹司「クリ、強く舐められるの好きなんだね。
どんどん、やらしい汁が垂れてきてる。
吸われるのも好きでしょ。
こうやって……ちゅ、じゅる……
ほら、君がさつき僕の胸にしたみたいに、
いっぱい吸ってあげる」

【ヒロイン、イく】

SE：鷹司の体に倒れこむヒロイン。シックスナインの体勢

【13 立ち上がった】
鷹司「ふふ……腰、すごい跳ねた。
気持ちよかったんだ、いきなりイっちゃったね。
まんこもびちゃびちゃでヒクヒクしてて、
僕のちんぽが待ちきれないみたい」

【じれた感じ】
鷹司「もういいでしょ？ お願い。
さつきから我慢しすぎて……
頭、おかしくなっちゃいそう……！」



1 【ヒロインが騎乗位に移行】

2
3 SE:体位変えのゴソゴソ

4
5 【1 ヒロインに見下ろされる】

6 鷹司「うん、そう。」

7 そうやって、僕の腰にゆっくり座って。

8 ゆっくり……あ、ああ……！」

9
10 【ゆっくり奥まで挿入後、動く前に少しインターバル】

11
12 鷹司「奥まで……入ったね。」

13 ぬるぬるで、あったかくて……腰、すぐに動かしたくなる。

14 でも、我慢するよ。

15 君がいいって言うまで、ちゃんと……ああ……

16 大丈夫？ 苦しくない？

17 すっごい締め付け……ずっと僕を待ってたみたい

18 ヤバいな、気持ちよすぎる……ああ!？」

19
20 【ヒロインが突然激しく動き始め、動揺する鷹司】

21
22 SE:ピストンまあまあの速度

23
24 【ピストン中、B】の受けレベルにやや大きな喘ぎでお願いします】

25
26 鷹司「あ、ああっ、急に動かれると……！」

27 うあ、だめ……こんな……！」

28 うそ、うそ……!？」

29 自分で動いてる時と、全然違う……！」

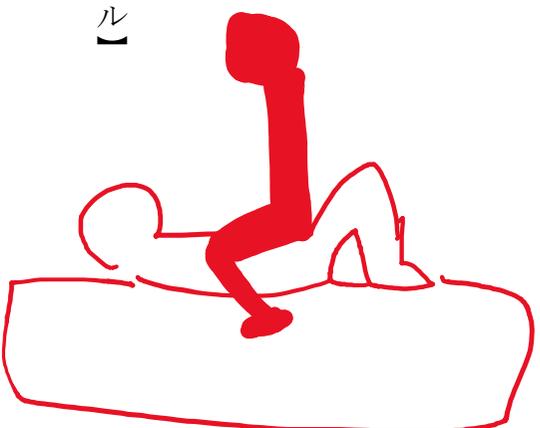
30
31 鷹司「頭真っ白になって、何もわかんなくなる……っ

32 と、止まって……！ お願い……！」

33 出ちゃう、出ちゃうから……！」

34
35 【ヒロイン「勝手にいいよ!」】

36



1
2 鷹司「だめ、だめ…イくなら、一緒がいい…
3 お願い、意地悪しないで！」
4

5 SE:ピストン加速

6
7 【追い詰められ、フィニッシュ】

8 鷹司「ああ、ダメだつて！」

9 そんなに強く、締めないで……

10 もう無理、出ちゃう

11 いやだ、まだいきたくない……いやだ、いやだ……【射精】！
12

13 SE:ピストンここまで

14 SE:疲れたヒロインが鷹司の上へのしかかる

15
16 【1 ぼんやりと、息整えながら】

17 鷹司「……いっちゃった。

18 ごめん……まだ、君が中でイけてないのに。

19 こんな、夫として失格だよね」
20

21 【ヒロイン「（自分が割と無事で済んだ的な意味で）悪くなかったよ」】
22

23 鷹司「本当に？ 僕にがっかりしてない？

24 君の前では、完璧な旦那様でいたかったんだけど……

25 でも、幻滅されてないならよかった。

26 僕で遊ぶの、気に入ったの？

27 すごく楽しそうに、腰振ってたよね」
28

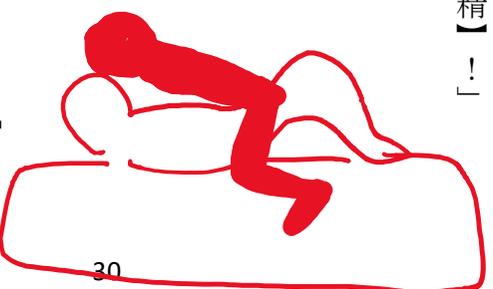
29 【ヒロイン「嫌だった？」】
30

31 鷹司「ううん。僕はすごくうれしかったよ。

32 君に触れていられるなら、僕はなんでもいいんだ。

33 君をぐちゃぐちゃにしても、僕がぐちゃぐちゃにされても」
34

35 SE:ベッドの上で体勢をかえる軋み
36



1
2 【二人で横並びに寝て、ピロートークに移る鷹司】
3

4 【3 ヒロインの耳元に】

5 鷹司「ねえ、さっきの僕、いい子だったでしょ。
6 また君から、こうやって触れてくれるんだよね？」
7

8 【うっとり】

9 鷹司「嬉しいな。君が僕をいじめたいなら、僕は歓迎。
10 手錠以外にも欲しい道具があれば用意するよ。

11 あ、君が怪我をするかもしれないような、
12 危険なものは別だけだね」
13

14 鷹司「あとで一緒に、そういう道具のあるサイト見てみようか。
15 いつも僕が参考にしてるやつ。
16 気に入ったのがあったら買ってもいいし、
17 なければ特注してもいい」
18

19 【ヒロイン疲労で眠くなる】

20
21 【1 ヒロインに密着しつつ】

22 鷹司「そろそろ眠い？
23 今日は君からいっぱい動いたし、疲れちゃったか。
24 後始末はしておくから、休んで大丈夫だよ。
25 それじゃ、またあとでね。
26 おやすみ、僕の奥さん」
27

28 【額に軽くキス】

29
30 SE:普通に自分で手錠外すカチャ音



トラック5 めでたしめでたし

すっかりと調教の進んだ鷹司。
さらに過激になった女性上位プレイ。

【鷹司帰宅】

【ベッドにうつ伏せて、本を読んでいたヒロイン】

SE:ページをめくる音

SE:いそいそ近づいてくる足音

SE:ドア開ける

SE:気持ち早足で寄ってくる鷹司

【うつぶせのヒロインに覆いかぶさる鷹司】

SE:ベッドぎしり

【6】

鷹司「ただいま。今日は早かったでしょ。

仕事、急いで終わらせてきたんだ。

今日は君と約束があったから、頑張っちゃった」

【ヒロイン「なんだっけ」】

鷹司「ひどいな、忘れちゃったの？

この間注文したおもちゃが届いたら、

僕のことめちやくちやにしてくれるって、

言ってたじゃないか

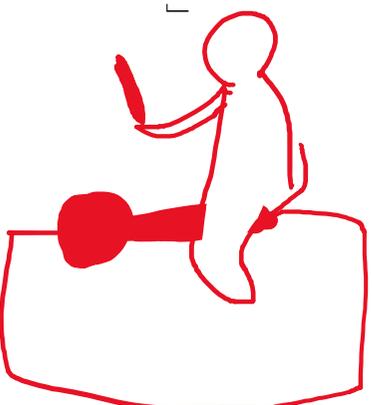
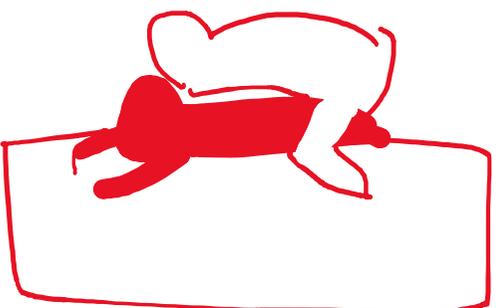
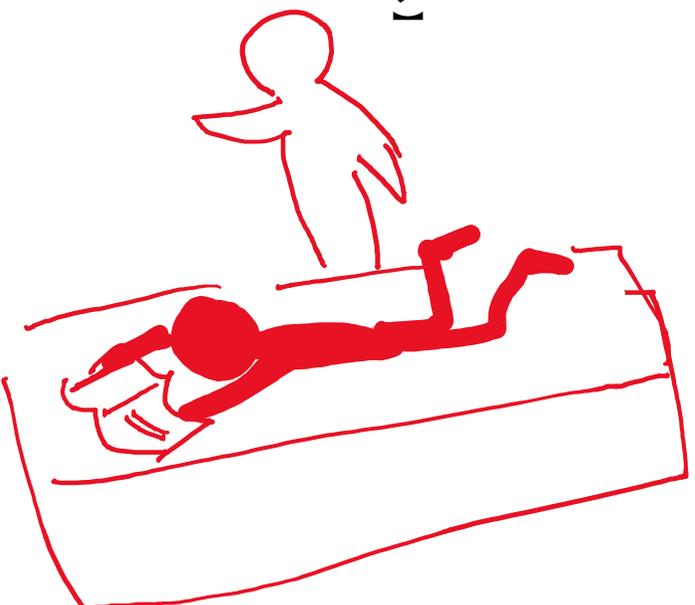
君の言いつけ通りに、ちゃんと準備してきたのに」

【ヒロイン「そうだったかな」の顔】

【9→14】

鷹司「思い出してくれた？

ほら、二人で一緒に選んだバイブ、持ってきたよ」



1
2 SE:ベッドの上にバイブ置く

3
4 鷹司「ほら見て、

5 充電してあるから、今からばっちり使えるよ。

6 ああ、この太さ……女の子が使っても痛そう。

7 でも、頑張って受け入れるから」

8
9 SE:本。ペラペラ

10
11 【寂しそうに】

12 鷹司「……その本、まだ読み終わらない？」

13
14 【ヒロイン「あと少しだから」】

15
16 【拗ね】

17 鷹司「僕がこんなに急いで帰ってきたのに、本を優先するんだ。

18 どうしてそんな、意地悪をするのかな。

19 その本は、また今度にしてよ。

20 しあさつてには僕も仕事だから、

21 続きはそれから読んだらいいじゃないか」

22
23 【不穏さじみ出る】

24 鷹司「それとも……本があるのが悪いのかな？

25 だったら家にある本を、全部燃やしちやおうか。

26 君がかまってくれないなら、また僕が君をかまうしかないもんね」

27
28 【だんだんご機嫌になる】

29 鷹司「そうだなあ……そうしたら、今君が読んでもるような、

30 くだらない本も、テレビも全部なしにして、

31 ご飯は全部口移しで、トイレの世話だって僕がやって、

32 僕のこと以外何も考えられなくしちゃおうか」

33
34 【ヒロイン渋々起き上がり、鷹司の方を見る】

35
36

1 SE:本閉じる

2 SE:ベッドゴソゴソ

3

4 【6】

5 鷹司「喜んで」やった！ 僕にかまってくれる気になった？

6 服、脱いじゃうね……」

7 SE:衣擦れ

8

9

10 【シャツから脱いでいく鷹司 台詞では恥じらっていますがノリノリです】

11

12 鷹司「そんなに見られると…恥ずかしいな。

13 君がしつこくいじるから、乳首でも感じるようになってしまったし。

14 そうやって視線で犯されるだけでも、ぞくぞくするんだ」

15

16 SE:シャツを脱ぎきってベッドに落とす

17 SE:ベルトはずす

18 SE:ズボンのチャック開ける

19

20 鷹司「それにほら、今から君にいじめられるって思うと、

21 僕のちんぽ、もうこんなになっちゃってる。

22 さっきから下着に我慢汁が滲みでて、大変だったんだよ。

23 車で家に向かう間も、ズーっと勃ちっぱなし」

24

25 SE:ズボンと下着も脱いで全裸になる

26

27 【ノリノリ】

28 鷹司「あんまり、見ないで。

29 流石に全部脱いじゃうと、ちょっと心もとないんだ。

30 あ、そうだローション……！」

31

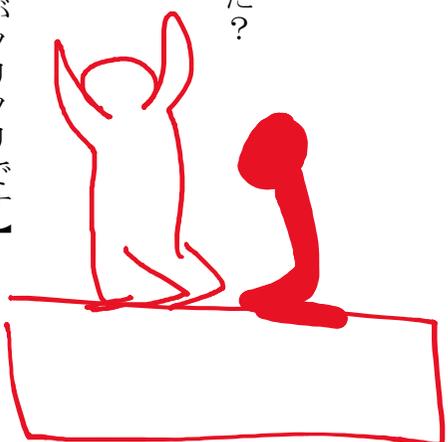
32 SE:ベッドサイドの紙袋ガサガサ

33

34

35

36



1 【10 ベッドサイドに手を伸ばしつつ】
2 鷹司「新しいの買ってきたんだ。」

3 ぬめりが長持ちするって評判のやつ。

4 今回のバイブは、前回使ったのよりかなり太いからね。

5 【ゾクゾク】僕、今度こそ壊れちゃうかも……」

6
7 【ヘッドボードに背中を預け、M字開脚で待つ鷹司】

8
9 SE：鷹司が動くベッドの軋み

10
11 【9 ベッドでちよつと離れてる程度の距離】

12 鷹司「ね、はやく僕のこと、」

13 ローションでぬるぬるにして。いつもみたいに」

14
15 SE：ヒロインが動くベッドの軋み

16 SE：ローション手のひらにブチュリ

17 SE：にちゃにちゃと鷹司の体にローション塗り広げる

18
19 【1】

20 鷹司「んっ……ローション、ちよつと冷たいな……」

21 この瞬間、いつもドキドキする

22 女の子みたいに足を開いて、とろとろのローションで、

23 君に全身を優しくなでられるの……

24 愛されてるって、感じるんだ……あ……！」

25
26 【ヒロイン、右手の指で鷹司のアナルをほぐし始める】

27
28 【8 切なげにあえぎつつ】

29 鷹司「もう、中に指入れるの？」

30 いつもみたいなのに、乳首、いじめないの？

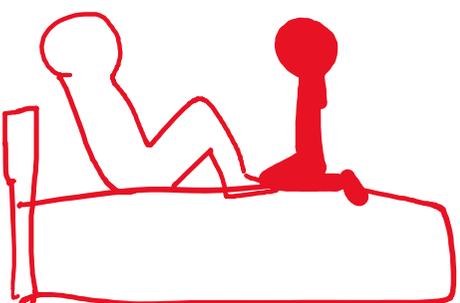
31 ああ、でも……こうやって、指でほぐされるの、すごく好き……

32 君が僕の中に入ってると思うと、しあわせで……」

33
34 鷹司「あ、ああ……！ 指……あ、奥に……！ 深くて……！

35 ああっ、そこ、押さないで！

36 ぐりぐりされると、すぐでちゃうから……！」



1
2
3 【追い詰められる】

4 鷹司「あぁっ…指、増えた……っ

5 何本って、そんなのわかんないよ。

6 あぁっ、だめ、駄目だっば……！

7 気持ち良すぎて、変な声出ちゃう…

8 お願い、いくときは、君の中でいかせて……！

9 君の中、以外には……あぁ……出したくないんだっばぁ……！！」

10 【ヒロイン「バイブ入れるまで我慢できたらね」】

11
12 【うつむき、歯を食いしばり】

13 鷹司「ふー……！！ ふー……！！

14 我慢する…っから……あ……

15 バイブ入れるまで、いくの我慢するから、

16 だからお願い……最後は、君の中で…っあぁ……！！？」

17
18 SE:水音加速

19
20 【喘ぎが激しくなってくる】

21 鷹司「あ、あ、だめ、駄目だって、激しくしないで…っ

22 指、気持ち良すぎて……！

23 もういい……！！ もう、痛くてもいいから……！！

24 お願い、バイブ入れて……入れて、入れてえ……！！」

25
26 SE:水音(1)まで

27
28 【1】

29 鷹司「はぁ……はぁ……

30 いて、くれるの……？」

31
32 SE:バイブ(電源オフ)入れる水音

33

34

35

36

1 【1 苦しげに喘ぐ】
2 鷹司「うぐ…あ、おつき…」
3 んん…大丈夫。

4 苦しけれど、平気…我慢するから、やめないで。
5 ちゃんと、奥まで…
6 (苦痛うめき5秒くらいお願いします)」
7

8 【苦しい感じで息整えつつ】

9 鷹司「全部…入った…?」

10 はあ…よかった…

11 無理かもって、思ってたけど…どう?

12 僕、君の期待通り?

13 ねえ、頭を撫でてくれる? よしよしてして
14 そしたら、苦しいのもまぎれるから」
15

16 【ヒロイン、頭を撫でつつディープキス】
17

18 【1 苦しみつつもふわっふわの幸せボイスで】

19 鷹司「ん…ちゅ…」

20 嬉しい…キスもしてくれるなんて

21 舌、柔らかくて、気持ちいい。

22 もっといっぱいして、もっと…

23 頭が、ふわふわしてきた…」
24

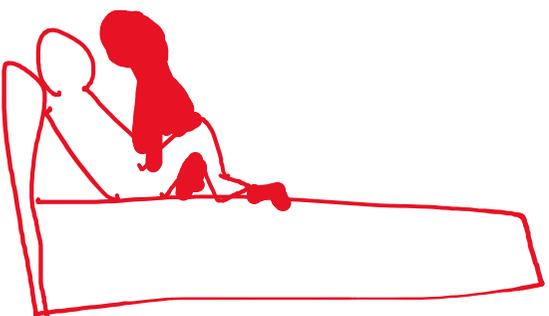
25 【ディープキス終了と同時に、バイブのスイッチON】
26

27 SE:バイブ音

28
29 【1 衝撃で弾ける感じのように少し下がる】

30 鷹司「あああああ!?! うあ、あ、あああ…!」
31

32 【いきなりの強烈な快感にパニックになる鷹司】
33
34
35
36



1 【1】
2 鷹司「だめ、だめ、無理……！」
3 そんな、いきなりは……おかしくなる……っ
4 こんな、無理だ、我慢できない……っ 【射精】
5

6 SE: バイブ音停止
7

8 【悲嘆】

9 鷹司「……ひどい、最後は中で出させてくれるって、
10 言っただじゃないか……！ どうして……んっ」
11

12 【文句を言う鷹司に、ヒロインからのバードキス2〜3回】
13

14 【1 軽くキスしつつ】

15 鷹司「もう、キスでごまかそうとしてるね？
16 君からのキスは嬉しいけど、そんなことで僕はー んん」
17

18 【口答える鷹司に、ヒロインからディープキス】
19

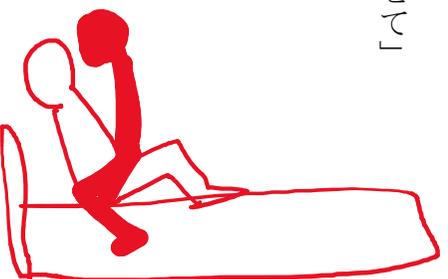
20 SE: 手コキの水音にちやにちや
21

22 【ディープキスしつつ喋る】

23 鷹司「ん……ちゅ……は……ちゅ……
24 あ……キスしながら、いったばかりのちんぽしごかれるの、
25 気持ちいい……
26 君の手が、僕の精子まみれになって、ぬるぬるで……
27 ほら、見て。またすぐに硬くなっちゃった。
28 ねえ、今度こそ……いいでしょ？ 中にいれさせて」
29

30 SE: めっどやゴンゴン
31

32 【ヒロインと鷹司、対面座位の体位に】
33
34
35
36



1 【3 耳元で】
2 鷹司「ほら、僕の首に腕絡めて。
3 ぴったり抱き合おう。ぎゅーって。
4 腰、落として。ゆっくりでいいから」
5

6 SE:挿入の水音
7

8 【3】
9 鷹司「ああ…すごい、君のまんこ、
10 全然慣らしてないのに、ちゃんと入ってく。
11 僕がぶっといバイブ入れて喘いでるの見て、
12 興奮したんだ…嬉しいな。
13 苦しかったけど、頑張って良かった…!!」
14

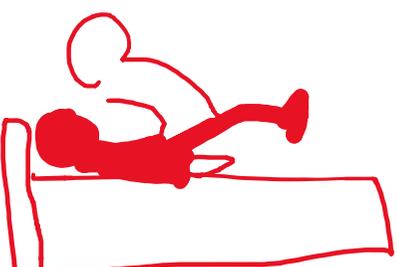
15 【鷹司がヒロインを押し倒し、正常位へ】
16

17 SE:ベッドに押し沈める
18

19 SE:ピストン開始(中速)
20

21 【1 ヒロインを見下ろしつつ】
22 鷹司【興奮して】「ごめん、もう、我慢できない…!
23 僕が上になっていいでしょ？ ね？」
24

25 あ、ああ…!! きもちい、すご、腰止まんない…!!」
26
27



28 SE:ピストン加速
29

30 鷹司「ははっ、すごい声。
31 かわいい。
32 中、どろどろのぐちゃぐちゃ…!!
33 ね、ほら…:…気持ちいでしょ？ ね？ ね？
34 今度お仕置きは受けるから…!!
35 だから今日は許してよ…:…ね？」
36

1 【7】
2 鷹司「僕も：前も後ろもすぐくて、意識飛びそうなくらい。
3 どこもかしこも気持ち良くて、頭おかしくなっちゃいそう…
4 君のせいなんだから、責任とってよね。
5 僕のちんぼ、気持ちいい？ もっと声聞かせて、もっと」
6

7 【ヒロインが絶頂するが、かまわず責め続ける鷹司】
8

9 鷹司「ふふ、いっちゃった？」

10 駄目だよ、休ませてあげない。僕に意地悪した仕返しだよ。
11 意地悪されるの、気持ちいい？
12 ずっとかわいい声、止まらないね。
13 こんなに気持ちよかったら、
14 さっきと同じくらい濃いのであるかな。
15 君が空打ちさせた分、たーっぷり注いであげる」
16

17 鷹司「ほら、腰逃さない。
18 一緒にもっと、ぐちゃぐちゃになっちゃおう。
19 またいっちゃうの？
20 あは……！ きもちいねえ。
21 ほら、もう一回……！
22 もう一回、もう一回……！」
23

24 【ヒロイン「もう無理」】
25

26 【1 至近距離で】
27

28 鷹司「もう無理？ 限界？
29 気持ち良くて苦しい？ わかるよ、僕もそう。
30 気持ち良くて気持ち良くて、壊れちゃいそうだね」
31

32 SE:ユーストーン加速

33 鷹司「大丈夫、君がどうなったって、僕が一生一緒にいるから。
34 だらしのない声あげておまんこ濡らして、
35 ずっと僕のちんぼに、よがってればいいよ。
36 そろそろ出すよ……ほら、君のお腹で、全部飲み込んで【射精】」

1
2 SE:「ストーン終了」

3
4 【息を整えつつ、しばし余韻に浸る鷹司】

5
6 【1 やや下を見て】

7 鷹司「はあ……はあ……すごいな、いっぱい出ちやった。
8 わかるかな、君のお腹のなか、僕の精子でたぶたぶ。
9 抜いたらこぼれちゃうの、もったいないけど……」

10
11 SE:「抜く音」

12 SE:「どろっとした液体ごぶり」

13
14 【6】

15 鷹司「ああやっぱり、ちよっとこぼれちゃった。
16 なんか悔しいな……。
17 ちよっと待ってね。僕のバイブも抜かないと……んっ……！」

18
19 SE:「太いバイブを抜く」

20
21 鷹司「あ、っは……んん……！」

22 はあ……はあ……ああ、苦しかった。
23 改めて見ても、このバイブ大きいね。

24 抜くのも大変なくらいだ……

25 ……え？ これ、僕のちんぽと同じサイズなの？」

26
27 鷹司「じゃあ、君が僕とお尻でするときって、こんなに苦しいんだ……

28 ううん、君の方が体も小さいし、もっと苦しいよね。

29 そっか……僕のために、いっぱい頑張ってくれてたんだね」

30
31
32
33
34
35
36

1 【1 ヒロインの顔に何度かキスしつつ、甘々に】
2 鷹司「よしよし、今日も、今までも、よくがんばりました。
3 今日、すごく幸せだったよ。

4 いっぱいいじめてくれて、ありがとう。
5 今度はどっちもお尻におもちや入れて、
6 セックスしてみようか。
7 ふふ……二人とも壊れちゃうかな？」

8 鷹司「——怖い？」

9 大丈夫だよ、心配しないで。

10 もし君が壊れても、僕がずっとお世話してあげるから。

11 君の欲望は、全部僕が満たしてあげる。

12 ……愛してるからね、君のためなら、なんでもできるんだ【ヒロインの
13 額にキス】

14 鷹司「シャワー、浴びようか。」

15 疲れてるよね、お姫様抱っこで連れてってあげる」

16 【ぐったりしてるヒロインを、お姫様抱っこする鷹司】

17 【9】

18 鷹司「うーん……お腹もすいてきたなあ。

19 今夜は何食べたい？ 何でも好きな物、用意してあげる。
20 晩ご飯終わったら、またいっぱいエッチなことしようね」

21 【軽いキス】

22 【1】

23 鷹司「愛してるよ、僕の奥さん」

24 SE:足音

25 SE:ドア開錠からの開閉

26 SE:足音

